



おるしべつしじんじや
遠流志別石神社
(石越)

石神様と呼ばれ敬愛されている遠流志別石神社は、平安時代(794〜1185ころ)中期、当時の朝廷が編さんした法令集の中の神社を一覧にして記載していた台帳に、石越を含む栗原郡の七社(栗原七座)の一つとして登録された由緒ある神社です。

住民が神社のある富崎地域に産する大きな礫岩(砂利が固まってできた石)を、子持ち石としてご神体に祀ったのが始まりで、大きな石から小さな石がこぼれ落ちるのを「大石が小石を産む」と考えていたことから、安産と豊作の神として信仰を集めました。

子持ち石の様子からこの地が「石小石の里」と呼ばれ、それが「いしこし」の由来になったという説も伝えられています。

当時の社殿は、時代の変遷の中でいつのころにか失われましたが、天明6年(1786)に地元有力者であった小野寺新右衛門により再興されました。天保11年(1840)には神階として最高位の正一位に、明治6年には登米郡の郷社に認定されるなど、格式の高い神社です。

【所在地】〒989-4701 登米市石越町北郷字中澤81番地1
【問い合わせ】登米市石越公民館 ☎ 0228 (34) 2036

歴史博物館

広報ミニ展示室 19

登米市の偉人伝① **加藤きん女史**

今でこそ、働く女性も珍しくありませんが、明治時代から日本赤十字社の看護婦として活躍した女性がいました。ナイチンゲール賞を受賞した看護婦・加藤きんです。



加藤きん女史
(写真提供 日本赤十字社)

明治23年に佐沼町に生まれ、同44年に日本赤十字社宮城県支部救護看護婦養成所に入所。大正4年から1年間、遣仏救護班看護婦としてフランス赤十字社に招聘され、救護活動に従事しました。その後はシベリアで傷病者の看護を行ったほか、中国の上海・南京・九江に往復すること10回。関東大震災や昭和12年からの日支事変、大東亜戦争で寝食を忘れて軍部戦傷病将士の看護に専念しました。寄贈された資料の中には、戦で傷ついた兵士たちが書いた感謝の手紙が数多く残っています。

秋の火災
予防運動

防火ポスターコンクール

消防本部では秋の火災予防運動にちなみ、市内の小中学生を対象に「平成19年度防火ポスターコンクール」を実施しました。入賞者は次のとおりです(敬称略)。



登米市消防長賞

- ☆ 佐々木智南 (新田二小 5年) ㊦
- ☆ 佐藤杏奈 (豊里中 3年) ㊦

■ 県消防協会登米支部長賞

- ▶ 武田聖羅 (登米小 5年) ▶ 猪股早紀 (石越中 2年)
- 優秀賞 ▶ 鈴木莉子 (新田一小 4年) ▶ 佐久間勇希 (加賀野小 5年)
- ▶ 中野紘佑 (加賀野小 6年) ▶ 千葉大貴 (石越小 6年) ▶ 斎藤優吏 (南方小 3年) ▶ 佐々木野乃花 (南方小 5年) ▶ 白鳥楓佳 (南方小 5年)
- ▶ 飯塚和香 (西郷小 1年) ▶ 千葉美咲 (東郷小 6年) ▶ 佐竹まるみ (米山中 2年) ※応募総数303点

